

もっと知ろうよ ICA 5 ICA大会 (国際文書館大会)

第1回ICA大会が開催されたのは、1950年、パリでのことだった。当時は少なくとも5年に1回の開催を考えていたらしい。1953年にオランダのハーグ、1956年にはイタリアのフィレンツェでそれぞれ第2回、第3回の大会が開かれた。以来、前回モンテリオールで開催された1992年までに大会は12回を数えるにいった。1956年の第3回以来、大会はいつもオリンピックの年に開催されている。ただし、開催場所はこれまでのところ欧米圏から出たことはない。

そのICA大会が第13回に至り、欧米圏から出るようになった。1996年の第13回ICA大会は中国が招致し、開催は北京が予定されている。中国側は数年前から開催予定場所の紹介ビデオやパンフレットを制作し、様々なICA会合で宣伝している。

ところで、ICA大会はICA会員だけの大会ではない。来年9月に北京で開かれる第13回ICA大会も、これまでと同じく資料保存利用に関わりのある仕事をしている人、関心あるすべてに対しそのドアを大きく開いている。もちろん、アーキビストという専門家の学会として研究発表中心の大会ではあるが、

4年に一度一堂に会する世界中のアーキビストが十分な交流をはかれるように、そして広大な中国という国を世界中のアーキビストに紹介できるように、さまざまな工夫をこらしたプログラムが準備されている模様だ。

第13回ICA大会の日程は、首都北京で1996年9月1日から8日までの8日間の予定。中国の第13回ICA大会組織委員会では大会本体に加え大会前のセミナー、大会後のオプションツアーなど、盛り沢山のプログラムを準備している。今回は通常のICA共通語(英仏独西露)だけでなく、中国語や日本語の大会参加案内書も作られるらしい。地理的にも文化的にも日本人には身近な中国でのICA大会、日本のアーキビストが気楽に参加できる国際大会として、絶好の機会であることは間違いない。

前回のモンテリオール大会では全史料協として大会参加ツアーを組んだ。来年の北京大会に向けてもまた大会参加ツアーを準備し、より多くの会員が安心して世界中のアーキビストと交流し、また広大な中国の見学の機会を十分に活用できるようにされたい。

(小川千代子・国際資料研究所)

図書紹介

記録史料の保存と修復

— 文書・書籍を未来に遺す —

編集 「記録史料の保存・修復に関する
研究集会」実行委員会
発行所 株式会社アグネ技術センター
A4版 240頁 定価 2060円

1993年11月に大阪で開催された「記録史料の保存・修復に関する研究集会」の報告をもとにまとめられたもの。文書や書籍など貴重な紙史

料を未来に伝えるために、さまざまな角度からのアプローチがなされている。現場での疑問に応えるハンドブック機能を高めるため「保存・修復に関するQ&A」等を付した。

主な内容

記録史料の材料と保存／紙の劣化—酸性紙問題と保存—／文化財周辺地域の大气汚染測定とその影響／文庫の保存環境・実測と予測／文書館の保存環境管理の実際／文書館における史料保存の現状と対策／自治体における史料保存の試み／澱嵌法による紙史料の修復／被災史料の救助と対策／今後の展望